

テーマ	財務会計の制度（Ⅱ）・利益計算の仕組（Ⅰ）					
学籍番号						氏名

1. 次の文章の空欄にあてはまる語句または数字を答えなさい。

- ・ 法人税額は、各事業年度ごとに算定される（ ① ）の額に、所定の税率を乗じて決定する。（ ① ）を計算するための会計が税務会計である。（ ① ）は、（ ② ）の額から（ ③ ）の額を控除した差額である。
- ・ （ ① ）の計算は、株主総会で報告または承認された損益計算書に記載されている当期純利益を基礎とし、これに税法特有の調整項目を加算・減算することによって算出される。このような株主総会で報告または承認された損益計算書の当期純利益を基礎にして（ ① ）を計算する制度の事を（ ④ ）主義とよぶ。
- ・ 貸借対照表の項目間には、資産＝負債＋資本という等式が成立する。この式を（ ⑤ ）とよぶ。
- ・ 複式簿記の仕訳では、借方の項目と貸方の項目を組合わせて、左右が同額になるように行われる。この均等関係が維持される仕組を（ ⑥ ）という。

①	課税所得	②	益金	③	損金
④	確定決算	⑤	貸借対照表等式	⑥	貸借平均の原理

2. 転記の必要性について述べなさい。

財務諸表を作成するためには、資産や負債などの項目別に分類集計する必要がある。仕訳帳への記録は、取引発生順のデータベースであり、この記録を取引によって影響を受ける項目別のデータベースに組み替える必要がある。つまり、項目別の分類集計を容易に行えるようにするために転記が必要となる。

3. 試算表の必要性について述べなさい。

財務諸表を作成するためには、帳簿に記録された内容に間違いがないことが必要となる。記帳手続の正確性を点検し、転記の正確性を確かめるために試算表を作成する必要がある。